

キャラクター名  
皆城 暦 (みなしろ れき)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ソラリス	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
オプション	ブラックドッグ	年齢	18歳	性別	女
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	36 %
出自	姉妹	経験	記憶喪失	邂逅	夢女子

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	2	0	0			2	行動値	15
感覚	1	1	3	2		7	(非装備時)	15
精神	1	0	0			1	戦闘移動	20
社会	4	0	0			4	全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	87	8	RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	6	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ポルトアクションライフル	射撃	7r+95		8		マイナー使用で命中達成値+5。同エンゲージ不可。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ロックオンサイト	
ハーメルンの笛	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
想い人	P	N		
和泉 胡桃	P 幸福感	N 不快感		
都築 京香	P 執着	N 無関心		
リップダクター	P 感服	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 20    残り財産P: 10

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ハードワイヤード	4		常時	至近	自身	自動		
効果: ブラックドック専用アイテムをLv個取得。								
加速装置	2	1	セットアップ	至近	自身	自動		
効果: ラウンド中行動値+ [Lv×4]。								
活性の霧	4	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果: ラウンド中攻撃力+ [Lv×3]。ただしドッジ-2。								
異形の転身	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動		
効果: 戦闘移動を行う。シナリオLv回。								
覚醒の秘薬	1	2D10	イニシアチブ	視界	単体	自動	120%	
効果: 未行動にする。自身対象不可。シナリオ1回。								
コンセントレイト:ブラックドック	2	2	メジャー					
効果: C値-Lv。								
アタックプログラム	4	2	メジャー	武器		対決		
効果: 達成値+ [Lv×2]。								
スパークウェッジ	4	2	メジャー	武器	単体	対決		
効果: このキャラ以外のキャラを攻撃をした時に [Lv×3] 点のダメージ。								
腐食の指先	1	2	メジャー	武器	単体	対決		
効果: シーン中装甲- [Lv×5]。								
踊る髪	1	2	メジャー	武器		対決		
効果: 硬直付与。								
異形の祭典	4	3	メジャー		Lv+1	対決		
効果: 対象変更。攻撃力-10。								
ブレインハック	1	10	メジャー	至近	単体	対決		
効果: 憎悪付与。シーン1回。								
タブレット	1	2	オート	至近	自身	対決		
効果: 射程を視界に変更。シーンLv回。								

私の最初の記憶は、白い天井だ。私の腕には点滴が繋がれていて、そこが病院なのだとわかった。目を覚まして暫くすると人がやってきて、私に色々な話をした。レネゲイドのこと、UGNのこと、FHのこと、そして、私の事故のこと。それによるとどうやら私は死んだらしい。いや、私の家族は、というべきか。ある日私の家族は旅行に出かけた。隣の少し山の方へ行った場所だった。そして、そこでジャームに襲われた。UGNのエージェントが来た時、両親は既に殺され、妹と私は重傷を負い、ジャームにとどめを刺される直前だった。ジャームはエージェントに処理され、妹と私は病院に運ばれた。しかしどうやら二人共深刻な臓器の損傷があり、適合するドナーもなし、どちらかが提供しなければどちらも助からないという状況で、結局私の臓器を移植し妹は助かり私は死亡した……が、幸か不幸か私は死によってオーヴァードとして覚醒、ブラックドックシンドロームだったために臓器を機械で補うことでなんとか生命を繋いだ。……もっとも全て聞いた話ではあるのだが。そして私は東京のN市に移住しUGNの施設で育てられ、チルドレンとして戦うことになった。まあ、チルドレンとしてはありふれた平凡々な人生だ。

